

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属： 心理臨床学科

名 前： 足田 忠寛

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2026 年 5 月 28 日

教員氏名：疋田 忠寛

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

2021 年 4 月より大学に赴任し、人文学部心理臨床学科講師として、教育活動を行っている。それまでは心理士としてさまざまな現場で 20 年ほど勤務をしてきた。その経験を踏まえたうえで、大学教員として、どのような教育活動を行って来たかを振り返り、また、今後の教育活動をどのような形でやっていくべきか、今回のティーチング・ポートフォリオの作成を通して明らかにしていくこととする。

2. 教育の責任

私の専門領域は臨床心理学であり、心理臨床学科の心理学コースにおける専門科目を主に担当しながら、学部の共通教育科目の担当も行っている。また大学院人文学研究科において、公認心理師養成課程の授業を担当し、大学院生の修士論文作成の指導担当も行っている。さらに、学部ではアドバイザーとして学生の各種相談等にも応じている。

(1) 授業科目の担当

2023 年～2025 年の担当科目は以下の通りである。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
心理学的支援法	2023 年～2025 年後期	平均 50 名	心理臨床学科 専門選択
社会・集団・家族心理学	2023 年～2025 年後期	平均 59 名	心理臨床学科 専門選択
心理学外書講読Ⅰ	2023 年～2025 年前期	平均 24 名	心理臨床学科 専門選択
フレッシュマンゼミ	2023 年・2025 年前期	21～23 名	共通教育必修
心理臨床学の基礎	2023 年～2025 年前期	平均 65 名	心理臨床学科 専門必修

心理臨床学の展開 (オムニバス)	2023 年～2025 年後期	平均 65 名	心理臨床学科 専門必修
障害者・障害児心理学	2024 年～2025 年前期	平均 56 名	心理臨床学科 専門選択
健康・医療心理学	2024 年～2025 年後期	平均 42 名	心理臨床学科 専門選択
チーム学校協働演習	2025 年後期	28 名	心理臨床学科 専門選択
カウンセリング	2023 年～2025 年前期	平均 26 名	共通教育選択
特別研究	2023 年～2025 年後期	3～8 名	心理臨床学科 専門必修
卒業研究	2023 年～2025 年通年	3～8 名	心理臨床学科 専門必修
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(大学院)	2024 年前期(隔年開講)	10 名	人文学研究科 専門必修
産業・労働分野に関する理論と実践(大学院)	2023～2025 年後期 (隔年開講)	10 名	人文学研究科 専門必修
研究指導(大学院)	2023 年～2025 年通年	1～2 名	人文学研究科 専門必修

■ 主要授業科目

「心理学的支援法」

心理臨床学科 2 年生を対象とした科目で、公認心理師資格取得のための必須科目である。心理支援を要する人々の特性や状況に応じ、適切な心理学的支援法の選択、調整を行える人材を育てることを目的としている。代表的な心理療法やカウンセリングの歴史や概念理解し、また、地域支援や心の健康教育、コミュニケーションの方法など実践的方法についても学んでいく。

「心理臨床学の基礎」

心理臨床学科 1 年生を対象とした必須科目である。心理臨床学科での 4 年間の学びの概要を理解するとともに、少人数クラスでの演習を通じてクラスメイトとの交流を深め、心理臨床学の基礎となる基本的なコミュニケーションを身につけることを目的とする。

「心理臨床学の展開」

心理臨床学科 1 年生を対象とした必須科目である。心理学と精神保健福祉の分野において実際に行われている研究や実践について、学生が具体的なイメージを持てるよう、心理臨床学科の各専門分野の教員たちおよび本学卒業生が自身で取り組んできた活動に関する紹介

を行う。

「特別研究」

心理臨床学科 3 年生を対象とした必須科目である。少人数のゼミ形式で、興味ある心理学の研究論文を検索し、講読しながら卒業論文作成のために必要なスキルを身に付けていくことを目的としている。教員の研究内容のレクチャーを交えながら行っている。

「卒業研究」

心理臨床学科 4 年生を対象とした必須科目である。少人数のゼミ形式で、3 年時の「特別研究」に引き続き、これまでに学んだ専門科目の知識を基盤とした研究を行う。各自のテーマに基づいた研究を通して、データの収集・分析、結果のまとめ方、発表の方法、論文の書き方などを学ぶ。

■ 非常勤講師

心理学入門 - α (熊本県立大学)

メンタルヘルス (尚絅短期大学)

(2) 教育組織運営

○障がい学生サポート委員会 (2023～2025 年度)

障がい学生の円滑な就学に寄与するため、合理的配慮等についての検討や、学生サポーターの活動への助言、教職員の理解を深めるための研修会の企画等を行っている。

○ハラスメント委員会 (2023～2025)

大学におけるハラスメントに対しての啓発のため、規約等の作成・更新や、学生・教職員への周知、理解を深めるための研修会の開催を行っている。

○FD・SD 委員会 (2023～2025、2024 年度より委員長)

年間を通して学内研修会を他の委員会との共催で開催し、教育改善のために学内教職員に授業を公開し相互に授業参観を行う授業参観ウィークの企画・運営等を行った。2024 年度は委員長として、授業参観ウィークを前期・後期の 2 回開催、教務委員会と協働し、ティーチング・ポートフォリオの更新を計画した。2025 年度からは授業参観の期間を広げ、前後期とも 1 ヶ月間とした。

○研究倫理審査委員会 (2024～2025)

学内の教員の研究活動において、倫理審査を必要とする研究の審査を行った。

3. 教育の理念

(1) 理念 I 学問への興味関心をもち、自ら深めていける

心理学という学問は特別なものではなく、日常に起こっている出来事を理解するためには非常に有用な学問である。日々の出来事や、話題になっているニュースなども心理学的な観点で捉えることで興味関心が湧き、自ら調べたりして深く理解することが可能となってくる。そのように日常と心理学を結びつけるそのような授業を行っていきたい。

(2)理念2 当たり前視点ではなく、多様な視点・多角的な視点で物事を見ていける

対人支援職として仕事をしていくためには、自分だけの視点だけでは理解することは難しい。多様な視点を持つためには、一つの理論や意見だけを伝えるのではなく、様々な理論や見方を紹介し、また多職種での連携が必要となってくることを伝えていきたい。

(2)理念3 自分を理解し、自身のメンタルヘルスを意識していく

人を支援するためには、まず自分自身が健康であることが重要である。自分がまず話を聞いてもらい、その効果を知っておくことで実感をもって相手の話を聞くことができる。また、自分がどのような受け止め方をするのか、どのように人を見ているのか、ストレス対処のパターンなど、自分を理解することで、支援の仕方も広がってくる。そうした自己理解に向けた教育も意識していきたい。

4. 教育の方法

(1) 心理学への興味、関心を深める

できる限り日常や、社会で話題となっているテーマを取り上げ、授業の中で紹介し、考える時間を取っていく。必要に応じて、参考になる文献や、話題となっている書籍などの紹介も行う。

(2) 多様な視点・多角的な視点で物事を見ていける

授業の人数によっては、グループディスカッションの時間を取りにくい場合もあるため、クリッカー等を使用し、様々な意見や考えを紹介することで、自分だけの視点だけでなく、多角的な視点を取り入れることができるように授業を行っていく。

また、多職種連携等については、自身の臨床経験を元に様々な視点からの情報を伝えていく。

(3) 自己理解とメンタルヘルス向上

公認心理師養成課程においては、自身が支援者となるために、なぜ話を聞いてもらうことが支援につながるのか、どのような効果があるのかを実感してもらえよう、ワークなどで体験を重視した授業を行っていく。また、公認心理師を目指さない学生に対しても、自身のメンタルヘルスを維持、向上していけるための知識や取り組みなどを日常で実践できる形で伝えていく。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力1 授業に応じたグループワークの導入

授業評価アンケートの結果からは、「グループワークやディスカッションの機会があった」がどの授業においても平均を下回ることが多かった。授業の人数によっては実施が難しい場合もあるが、多角的な視点で物事を捉えるため、可能な範囲でグループワーク、ディスカッションの機会を設けていきたい。

(2)改善努力2 提出物へのフィードバック

授業において、課題を課すことがあるが、「教員からの課題などの提出物にフィードバックがあった」の項目も他の項目と比べて低い結果となっていた。点数でのフィードバックのみになってしまっている部分もあるため、学生の意見に対して、適切なフィードバックコメントを返していけるようにしていきたい。

6. 教育の成果・評価

授業評価に関しては、理解しやすさについては高い評価をもらえている。しかし、改善努力にも記されているように、「グループワークやディスカッションの機会」が授業によっては少ないこともあり、このことについては、人数の多さも関係するが、クリッカー等を用いて、グループで意見を共有する機会を積極的に持っていきたい。「フィードバック」に関しても、課題の提出期限を少し早め、フィードバックコメントを毎回確実にしていけるよう努めていく。

また、「意見を求められたり、質疑応答の機会があった」の項目も平均より低かった。こちらは授業の中でというより、感想へのコメントなどで、個別にしている部分が大きいので、授業の中で扱う機会を今後設けていきたい。

7. 今後の教育に関する課題と目標

大学教員として4年が経ち、授業の方法などに慣れてきた部分もある。しかし、学生が自ら学びを深めていけるような授業の内容や教材などがまだ十分に準備できているとは言い難い部分がある。実践経験については伝えることができているものの、知識があつてこそその実践であるため、対人援助職として、社会に出ていく際に、実践に必要な知識を身に付けていけるような授業のあり方を考え、グループワーク等の時間も積極的に取り入れていきたい。